

第7回 伊予銀行決算説明会 & 特別講演会

伊予銀行
雲ミュージアム
4月28日(土) オープン

伊予銀行の概況



伊予銀行のプロフィール

本店所在地	愛媛県松山市	
創業	明治11年3月15日(第二十九国立銀行設立)	
創立	昭和16年9月1日	
資本金	209億円(発行済株式総数 323,775千株)	
従業員数	役員 19人、職員 2,726人(臨時を除く)	
拠点数	国内 149か店(出張所7を含む)、海外1か店(香港)	
	13都府県に店舗ネットワークを展開 (愛媛県117か店、大分県・広島県各6か店、香川県5か店、その他15か店)	
	駐在員事務所2か所(ニューヨーク、上海)	
主要勘定等	預金等(預金+譲渡性預金)	4兆 1,984億円
	貸出金	3兆 1,078億円
	総資産	4兆 8,228億円
	純資産	3,966億円
外部格付	AA-(安定的) : 格付投資情報センター(R&I)	

連結自己資本比率(国際統一基準)	12.54%
連結子会社数	12社
連結従業員数 職員 (臨時を除く)	2,916人

(※計数は平成19年3月末現在)



平成20年3月15日に創業130周年を迎えます

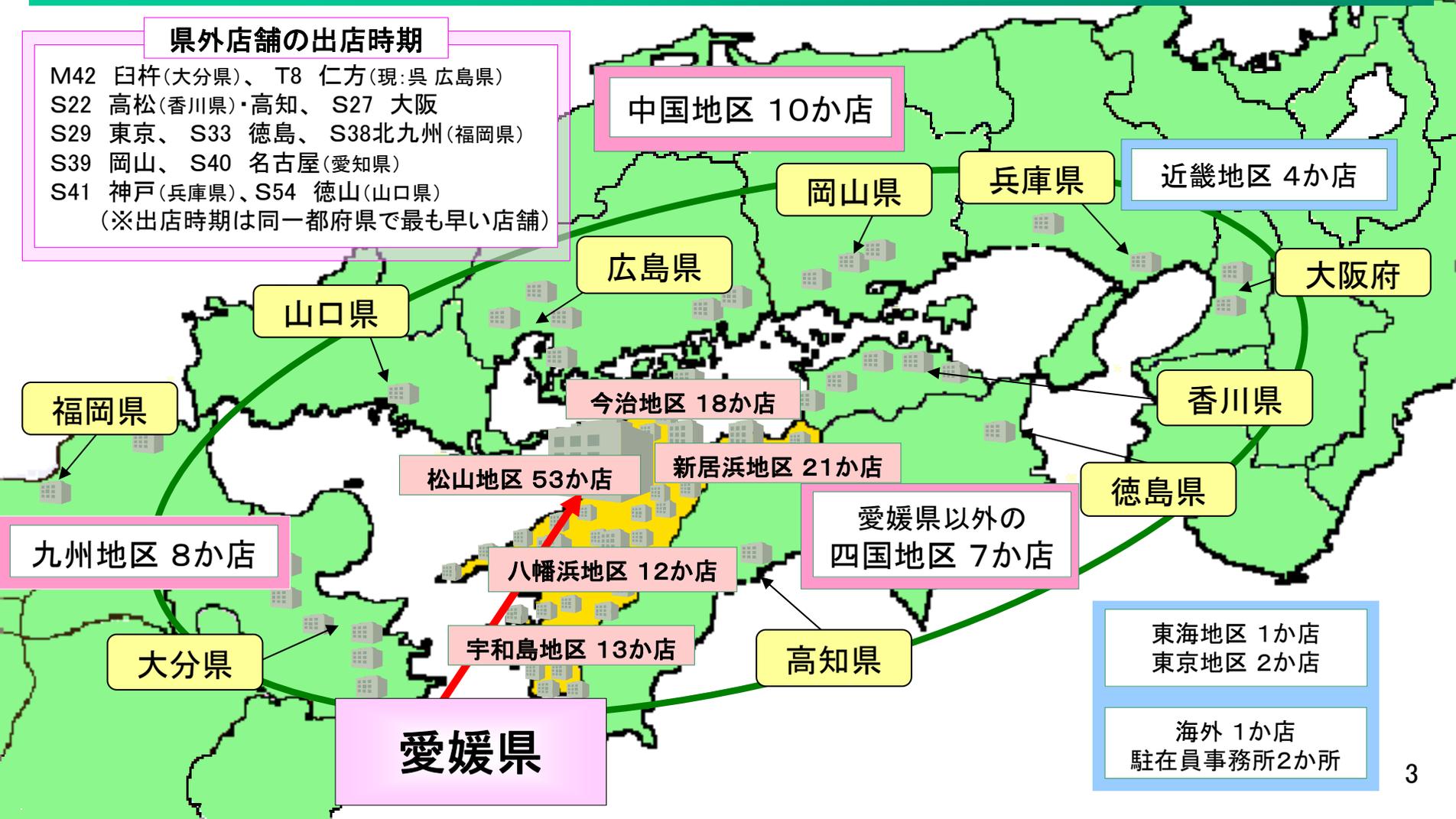


伊予銀行の経営基盤

● 瀬戸内圏域＋東京・近畿・名古屋に店舗配置(13都府県)
古くから瀬戸内に根ざした地銀No.1の広域店舗ネットワーク

県外店舗の出店時期

- M42 臼杵(大分県)、T8 仁方(現:呉 広島県)
 - S22 高松(香川県)・高知、S27 大阪
 - S29 東京、S33 徳島、S38北九州(福岡県)
 - S39 岡山、S40 名古屋(愛知県)
 - S41 神戸(兵庫県)、S54 徳山(山口県)
- (※出店時期は同一都府県で最も早い店舗)



伊予銀行の経営指標の特性 (18年度)

● 健全性は高く、収益性のさらなる向上を目指す

健全性

有価証券含み益(連結)

当行実績：2,220 億円
地銀平均：632 億円

不良債権比率 (金融再生法)

当行実績：3.29 %
地銀平均：4.20 %

ROA (コア業務純益／総資産)

当行実績：0.76 %
地銀平均：0.65 %

収益性

ROE(注)

当行実績：6.36 %
地銀平均：4.89 %

預金等平残増加率(過去3年)

当行実績：8.04 %
地銀平均：3.35 %

成長性

貸出金平残増加率(過去3年)

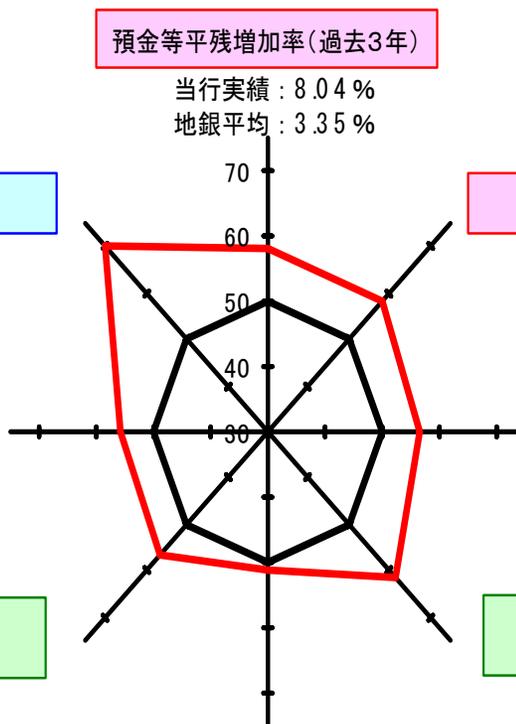
当行実績：9.97 %
地銀平均：3.56 %

コア業務粗利益増加率(過去3年)

当行実績：6.92 %
地銀平均：2.16 %

OHR (経費／コア業務粗利益)

当行実績：54.42 %
地銀平均：63.82 %



地銀平均に対する標準偏差
 — 地銀平均 = 50
 — 当行

平成18年度決算の特色

コア業務純益は5年連続で増益 過去最高に

収益力は着実に向上

貸出金残高 3兆1,078億円、年間増加額 657億円、年間増加率 +2.2%
 ～平成9年3月期以降、10年連続で増加～

預金等残高 4兆1,984億円、年間増加額 830億円、年間増加率 +2.0%
 ～平成9年3月期以降、10年連続で増加～

預り資産残高 年間797億円増加、年間増加率 +29.7%

信用コスト158億円(前年度比+122億円)により最終減益

不良債権比率が3.29%に上昇 ～18年9月中間期比+0.17ポイント～

連結自己資本比率12.54% 有価証券評価益2,182億円と高い健全性

創立65周年を迎え、平成18年9月中間期に記念配当50銭を実施
 ～年間配当7円50銭～